

2010年9月27日

松戸市長 本郷谷健次様

松戸市PTA問題研究会
代表 浅井 ゆき

要望書

4期16年続いた川井市政が終わり、本郷谷さんが新しく市長になられたことで、松戸の教育も良い方向に変わるのではないかと私たち市民は期待しております。

私たち松戸市PTA問題研究会は、40年近く松戸の教育の問題について考え、学習し、行動してきた市民団体です。毎月定例会を開催しておりますが、その定例会において松戸の教育の現状や課題が数多く出されています。そんな保護者や市民の教育への思いをぜひ本郷谷市長にお伝えし、松戸の子どもたちが豊かに育つために共に松戸の教育を作っていくスタートにしたいと考え、話し合いの場を設定していただきました。今後も継続してこのような場を持っていけたらと考えています。

本郷谷市長は9月議会の所信表明の中で、「若い世代の流入、定住を促進し、まちが賑わいであられ、子どもを産み、育てたくなる、文化の香りあるまち、まつどを目指す」と述べ、その実現への第一歩として、子ども医療費助成対象年齢の引き上げや、子宮頸がんの予防ワクチン接種費用の一部助成などを補正予算案に計上しています。これは多くの保護者の思いに答えるものと大いに歓迎するところです。松戸の未来を担う子どもたちがずっと松戸に住み続けたいと願うような、そんな町にしていけたらと私たち市民も考えています。

ぜひ、松戸の教育についても同様の姿勢で取り組んでいただきたいと願うところです。そのためにも、**松戸の子どもたちや学校の現状を見てほしい、現状の問題点を把握して、それを解決することからスタートしてほしい、そう願っています。**松戸の教育の課題はたくさんありますが、保護者・市民が最優先で取り組んでほしいと願うものは下記の通りです。

限られた時間の中で、市長のお考えもぜひお聞かせ下さい。

記

1. 松戸版教育改革の検証・見直しをしてください。

今から7年前、松戸市版教育改革として学校統廃合が行なわれ、学校選択制が導入され、松戸の教育を大きく変えることになりました。その実施の仕方も強行といわざるを得ないほど、拙速なものでしたが、その後の検証が行なわれたのかどうか、市民や保護者には見えてきません。学校統廃合の根拠となった学校の適正規模12~24学級でしたが、現在24学級を超える大規模校が4校あります。大規模校の解消についてはどう対応していくのか。またそのとき導入された学校選択制ですが、実際に選択制を利用して学区外の学校に入学する児童・生徒はそれほど増えていません。多くの子どもたちは、地域の学校へ入学しています。選択制によって地域の教育活動への影響があると考えられる保護者も多く存在します。選択制のメリット・デメリットをしっかりと検証する必要があると考えます。そうした検証を市民に開かれた形で行い、今後の施策に反映してください。

2. 今年度から始まった「5年間英語」を見直してください。

今年度から始まった5年間英語は、「小学校5・6年生で400の単語を繰り返し学習することで定着を図る」というもの。フラッシュ英語と言われているようですが、朝の15分学習の時間にテレビ画面に単語が次々にフラッシュのように映し出され、それを見て子どもが単語を習得するというようなものと聞いています。そのようなフラッシュ画面を毎日見ることが発達期の子どもの脳に悪影響がないのかと心配する保護者もいます。また、そのような学習の仕方では、小学校の時期から英語嫌いになる子どもが増えてしまうのではないかと危惧する保護者もいます。教育委員会

は、多くの中学生が英語に苦手意識を持つのは「授業の内容に比べて学習量が少ない」ということが一つの原因ととらえ、それならば小学校5年生からの5年間にすれば学習量が増えるだろうと考えたようですが、その学習の質については言及していません。小学校の英語教育については、専門家の間でも意見が割れています。もう少し十分な検討が必要だと考えます。

3. 学校教育環境の整備を十分に進めてください。

本郷谷さんの市長選のマニフェストでも「小中学校の校舎の耐震化工事を進める」とありますし、実際に校舎等の耐震化は進められています。今後も進めていただきたいのですが、それとあわせて老朽化した校舎の補修や、トイレ・手洗い場などの水周りの整備もぜひ行なってください。トイレが壊れていても修理されず使えないままという例も聞きます。子どもたちが多くの時間を過ごす学校設備の改善に取り組んで下さい。

また、今年は特に猛暑で夏休み前後の教室は、子どもたちも先生も耐えられないような暑さになっていました。でも、松戸市内の小中学校の教室には冷房設備は全くありません。今年は全学級に大型のテレビが導入されましたが、多くの保護者は「テレビより冷房設備を」と願っています。教室でも熱中症になるのではないかと、集中力が落ちて勉強どころではないのではないかと保護者は心配しています。全教室にクーラーが設置されている他の自治体の話を聞くと、とてもうらやましくなるのは当然のことです。ぜひ、教室に冷房設備を設置してください。

4. 先生を増やしてください。

来年改訂される小学校学習指導要領の前倒しで、今年から授業時数が増えています。子どもたちへの負担も大きくなっていますが、それに伴い先生方への負担も増えています。困難な問題を抱える子どもや特別な支援が必要な子どもたちも増えており、先生はその対応に追われており、保護者から見ても先生方がとても忙しく、授業準備や自己研修の時間、一人ひとりの子どもと向き合う時間、保護者との信頼関係を築くための時間など十分に取れないと思われまます。また、一つの学校内に正規雇用と非正規雇用の先生が混在していて、職員同士のコミュニケーションも十分に取れにくい状況があります。精神的・身体的にも疲れ果て、病欠の先生も増えていると感じます。子どもたち一人ひとりを大切に育てていくためにも、十分な先生の配置をお願いしたいと思います。

また、今年度も特別支援学級が増えていますが、それでも他市に比べるとその設置率が低いのが現状です。各学校に特別支援学級があれば、障害を持つ子どもたちが住んでいる地域の学校で学ぶことができます。また、特別支援学級の先生方がもう少し障害への専門的な知識を持っていれば、一人ひとりの子どもたちへ適切な支援ができるはずです。特別支援学級の増設と、先生への研修を更に進めてほしいと思います。

5. 教育費の父母負担の軽減に努めてください。

松戸市の公立小・中学校の教材費などの学校徴収金は、小学校で平成20年度平均11629円(年額)、中学校で平均13871円(年額)となっています。その他に給食費や、修学旅行代・校外学習費、卒業対策費も加わります。学校徴収金以外にも算数セット、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、習字道具、絵の具、裁縫箱などの道具類の購入、体操服、上履きや中学校の制服・ジャージの購入などにかかる負担は大きくなっています。中学校での部活費用もかかります。こうした学校教育にかかる費用の父母負担をできる限り軽減する施策を考えてください。例えば、学校教育に必要なドリル・ワークブック、社会科資料集や道徳の副読本などは公費で負担してください。算数セットは教室に備え付けにする、体操服やジャージ・上履きなどは学校指定にすると割高になるので、白いTシャツや市販のジャージなど市販のもの可とするなど、できる限り父母負担の軽減に努めてください。